

静岡への メッセージ

Message to
SHIZUOKA

伊藤元重氏

東京大学大学院経済学研究科教授
(財)総合研究開発機構 理事長

Motoshige Itoh



経歴

1951年、静岡県静岡市生まれ。米国ロチェスター大学大学院経済学研究科博士課程修了。米国ヒューストン大学経済学部助教授、東京都立大学経済学部助教授、東京大学経済学部教授などを経て、現在、東京大学大学院経済学研究科教授、政策分析ネットワーク代表、(財)総合研究開発機構理事長をつとめる。また、経済産業省など政府審議会ならびに森内閣・小渕内閣・安倍内閣の諮問委員会の委員をつとめ、政策の実践現場で多数の実績を有する。

日本のカリフォルニアを目指せ。

地域が育てる産業

戦後の日本は地方の個性を失わせてしまった。新幹線に乗って静岡駅に来て、駅ビルに入っている店は他の地方都市と同じようなものばかりだ。目隠しされて連れてこられても、ここが静岡市だと当てるのに時間がかかるだろう。これからの時代に活力ある地域社会を育てるためには、それぞれの地域がいかに個性を持てるのかにかかっている。

かつて、産業が地域を育てるという見方があった。有力な企業を多く誘致することが経済を活性化させ、そして地域での雇用を生むと考えられていたのだ。しかし、そうした見方は時代遅れだ。大企業を誘致しようとしても、企業の目は海外に向いている。よほどのことがないと、地方に新たな工場を建てることにはならないだろう。

いまや産業が地域を育てる時代ではなく、地域が産業を育てる時代となったのだ。魅力ある地域には多くの優秀な人材が集まり、そしてそこに企業が育つ。有力な企業も多く集まってくるだろう。

その典型がカリフォルニアだ。私もカリフォルニアに行くのが大好きだ。魅力的な人が多くいるし、ワインも海産物料理もおいしい。そこに行けば、何か刺激的な情報も得られそうな気がする。そう考えるのは私だけではない。だからこそ、世界中から優秀な若者が集まって



きて、次々に新しい企業が生まれてくるのだ。

開かれた社会に

日本全国で一番カリフォルニアに近い地域と言えば、それは間違いなく静岡だろう。温暖な気候に恵まれ、海もある。美味しい食材も多くあるし、東海道沿線で都会的な雰囲気も持っている。静岡を他の多くの地方都市のように、金太郎飴のようなミニ東京にしないで、いかに個性的な魅力のある町にするのが問われているのだ。

面白い町には、そして住みやすい町には、優秀

な若者が集まってくる。グローバル化の時代であるので、それは日本人だけに限る必要はない。アジア全域に広げて見れば、優秀な若者はいくらでもいる。

今の時代、海外に開かれていない町が栄えることはない。静岡の魅力は日本の基準で捉えるのではなく、アジアの基準で捉える必要がある。そして海外への発信も必要だろう。海外への発信をすること、初めて自分たちの町の魅力と欠点が見えてくるはずだ。静岡に来ている海外の人に聞いてみるのがよい。静岡のどこが魅力的でどこが問題なの

か、ということ。

先日、長野県の小布施に行った。セーラ・カミングスさんという米国生まれの女性が発信を行い、全国から多くの観光客が来るという。米国生まれの人だからこそ小布施の魅力が見えてくるのだろうか、その人の発信だからこそ多くの人を引きつけることになる。静岡でも、外から来た人に情報発信をしてもらったかどうか。外から人が来ない町は衰退していく。そうならないためには、外から静岡に来た人に静岡のよさを発見してもらって、それを内外に発信していくことが必要なのだ。

今月の一文字

伊藤元重氏が選ぶ
静岡の良さを表現する一文字。

静岡の気候が暖かなので暖という字を選んだだけではない。静岡の人たちの心が暖かであることが地域の魅力となるはずだ。



著書のご紹介

経済危機は
世界に何を
もたらしたか
2010年代、
政策転換の行方



東洋経済新報社 1680円(税込)